

令和7年度第2回蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム 会議録(要旨)

開催日時	令和8年3月18日(木)午後2時から午後4時まで			
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室			
出席者	【委員】			
		所属	氏名	
		名古屋大学	遠藤 守	
		蒲郡市	贄 年宏	
		中部電力パワーグリッド株式会社	今泉 行晴	
		NTT 西日本	中島 盛治(代理出席)	
		まちづくりセンター	金子 哲三	
		蒲郡市観光協会	瀬川 功	
		形原地区公共交通協議会	藤田 幸三	
		愛知工科大学	中谷 淳	
		愛知大学	山口 治子	
	【事務局】			
		所属	役職	氏名
		企画部	部長	牧原 英治
	企画部 デジタル行政推進課	課長	小島 弘明	
	企画部 デジタル行政推進課		山本 拓也	
	企画部 デジタル行政推進課		福田 知之	
会議内容	1 開会 2 内容 (1) 行政 DX の進捗について (2) 座談会の結果について (3) 今後の作業部会の方向性について 3 質疑応答 4 閉会			
資料	資料1 蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム名簿 資料2 蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム設置要綱 資料3 蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム会議資料			
会議要旨	1 開会 新任委員の紹介 欠席委員の連絡 2 報告 (1) 行政 DX の進捗について (2) 座談会の結果について (3) 今後の作業部会の方向性について ※資料に基づき事務局から説明資料3			

3 質疑応答

【(1)行政 DX の進捗について】

- 【意見】DX というのは、聴覚障害、視覚障害のような障害者の方に対して、あるいは外国人に対する多言語化対応などに対して可能性を広げている分野だと考えている。行政 DX の取組みのなかに今後は取り入れていってもらえたらと思う。
- 【意見】国の自治体 DX の取組みのオンライン化はあくまで内側の部分が注目されがちだが、フロントヤードいわゆる市民側の改革というのも今後取り組んでいくべき内容であり、それによる行かない窓口、来なくていい窓口が実現できるので、引き続き行政 DX の一つとして取り組んでいただきたい。
- 【質問】行政 DX としてオンライン化を進めてきているのはわかったが、このオンライン化により市民の方がどれだけ恩恵を受けているかなどの可視化するなどの実施予定はあるか。
⇒【事務局】オンライン化取組計画に記載している手続については把握しているものはないが、国が優先的にオンライン化に取り組むべき手続として示しているものについては、毎年オンライン化の状況及び、オンライン化されている場合の利用率というものは報告しているので、把握はしている。
- 【質問】市民がオンライン化されたことを実感しているかなどは把握する方法はあるか。
⇒【事務局】把握しているものはないが、行政 DX の取組みとしてオンライン化に取り組んだ最初の目的が、窓口に来るだけでなく、オンラインでも手続できるという手段を増やすというものであった。今後は利用率の部分にも目を向けながらオンライン化について取り組んでいきたいと考えている。

【(2)座談会の結果について、(3)今後の作業部会の方向性について】

- 【意見】座談会をやるうえで、必ず成果を求める必要はないとも考えており、本会議の場以外で、そういった議論できている場があること、また次また集まろうとなることが大切だと考えている。そのため今回のように議論が収束しきれなかったことは悪いことではないと思う。
- 【意見】事務局からも説明もあったとおり、NTT や中部電力など大手企業と市内にある IT 企業が同じ目線で取り組むことができたことは非常によかったと感じている。
- 【意見】次回以降の作業部会の取組みでは、ある程度テーマは絞りつつも参加いただいた方が自由に議論できるような形でやることも有意義であると思う。
- 【意見】座談会で色んな意見が出たが、やはりいい取組みにはコストがかかる。低コストで取り組めることも検討してもよいと思う。
- 【意見】座談会の場で出た他自治体の取組みのコミュニティバスの事例は非常によいと思ったので、当市においても実証してみてもよ

	<p>いのではないと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【意見】各自治体も DX を進めていくにあたりまだまだ手探りのところも多いと思うので、座談会のようにみんなで考えていく場があったことは非常によいと思った。 ● 【意見】地域の課題がどういったものかというのを座談会のような場で一度棚に上げて、そこから何を取り組んでいくかを検討すればよいと考えている。 ● 【意見】市民の意見や事業者の意見だけでなく、市役所の各原課の意見についても今後は聞けるような座談会となればよい。 ● 【意見】データを集めていくことはあらゆる分野で必要になってくるといのは座談会に参加して改めて感じた。また色んなサービスが展開することができるのではないかという可能性も感じた。 ● 【意見】色んな会議体に参加しているが、意見関連な議論ができる会議というはなかなかないので、非常にやり取りがうまくいったと感じた。 ● 【意見】観光の目線でいくと他自治体の事例であったビッグデータを取得する仕組みなどはぜひやってほしいと感じた。ただ観光にコストを割きすぎると、市民の方には直接裨益するものではないため、そのあたりのバランスは難しいと思う。 ● 【意見】大手企業のような大きな事業者は、行政と立場が似ているところがあると感じていて、特に電力系、通信系、保険会社などは近年まちづくりという行政が抱えているミッションと近い取り組みを積極的に取り組んでこられている。地域課題に取り組む同じ仲間として取り組んでいければと考えている。 ● 【質問】まちづくり DX の取り組みのなかにオープンデータの記載がある。蒲郡市はオープンデータに関してどういった形で取り組んでいるか。 ⇒【会長】東三河 5 市で取り組んでいる「東三河オープンデータサイト」において、蒲郡市もオープン化できるデータを掲載している。 ● 【意見】地元企業の情報が知りたいといった声が学生から上がっている。商工会議所は学生目線の情報展開ではないため、学生目線の情報公開もしてくれるとよいと思う。 ● 【意見】学生の交通手段は、バスと自転車となる。学生が行ける観光地はどういったものかという観点も必要だと感じる。 ● 【意見】行政職員はまだまだオープンデータやデジタルに疎い部分が多いので、学生と関わることで吸収できる部分は多いと思う。AI を使う場面も増えてきているが、若い人から使い方等を行政職員も吸収していくことで、最終的にまちづくり DX に繋がっていくと思う。 ● 【意見】その他、大学生が小中学生に向けてデジタルの教育をしてもらう機会を作っていくこともよいと思う。ハード面の環境は整ってきたが、ソフト面の指導はまだまだ足りていないという課題があるため、教育のデジタルの部分で大学生にもっと関わってもらう機会が
--	---

	<p>増えるとてもよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none">● 【意見】教育の部分も行政に全て任せるのではなく、地域一体となって取り組んでいく体制が整うとてもよいと思う。地域全体で支えていくということが今後とても重要になってくる。 <p>4 閉会 (1) 事務局から事務連絡</p>
--	---